

# 結果概要

---

次ページより、本調査の主な結果を報告する。

本調査においては、「キャリア教育」「就職支援」を次のように定義している。

- キャリア教育・・・主に低学年を対象とした、就業の基礎となる「基本的な職業観」やコミュニケーション力、課題解決力などの「汎用的能力」を育成するための教育
  - 就職支援・・・就職を成功させるための各種スキル習得や情報提供・相談等の支援
-

# 1. キャリア教育の現状

単位取得を伴わないキャリア教育はキャリアセンター主体、単位取得を伴うものについては教学側主体での実施率が高い。キャリア教育の課題は学部の教育との連携や学部教員の理解。

## (1) キャリア教育の実施状況

平成21年度のキャリア教育の取り組みをみると、キャリアセンター主体で「実施している」「予定または検討中」の回答が多い項目は「進路冊子の配布」81.0%、「職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）」78.5%である。一方、教学側主体では「インターンシップ科目（単位あり）」60.6%、「職業観育成のためのガイダンス科目（単

位あり）」56.9%、「汎用的能力の育成を目的とした科目（単位あり）」54.3%の順に高く、「単位あり」の科目については教学側主体の実施が多く、それ以外はキャリアセンター主体が多い。

設置者別に実施率についてみると、キャリアセンター主体の「汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）」で、私立の53.9%に対し、公立・国立がそれぞれ33.3%、26.0%と、20ポイント

Q. キャリア教育として、平成21年度にどのような取り組みを実施しましたか。または、今後実施する予定ですか。

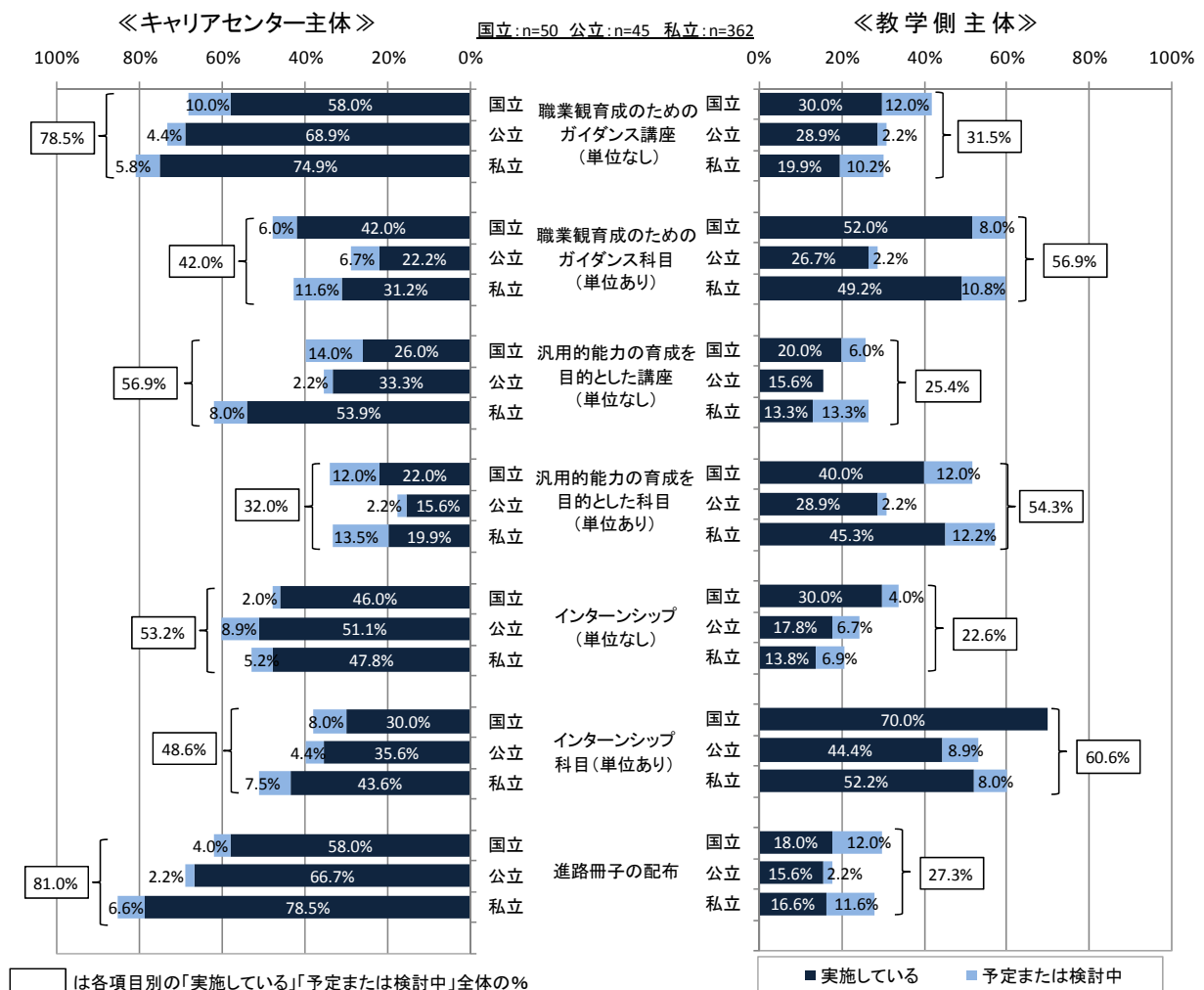


図1-1 キャリア教育の実施状況(設置者別)

以上の違いがみられている（図1-1）。

キャリア教育の多くは3年生での実施・検討率が高いが、「職業観育成のためのガイダンス科目（単位あり）」は1年生のうちから、キャリアセンター、教学側主体の双方で5~6割程度が実施・検討している。

キャリア教育の外部協力者については、キャリアセンター主体の場合において、「職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）」「汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）」など

で、就職支援民間事業者と連携、または連携を検討しているところが多いようだ（表1-1）。

## (2) キャリア教育の課題

キャリア教育の問題点・課題をみると、「キャリア教育と学部の教育をどう結びつけるのが難しい」という回答が56.4%（「とても思う」「やや思う」の合計）と最も高く、次に「キャリア教育の重要性について学部教員の理解が図りにくい」との回答が55.7%と高かった（図1-2）。

表1-1 キャリア教育の対象学年および外部協力者

主体	キャリア教育の取り組み	「実施している」 及び「予定または検討中」 ＜件数＞	対象学年				外部協力者			
			1年	2年	3年	4年	OB・OG	採用企業	就職支援 民間事業者	協力なし
キャリアセンター	職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）	359	54.3	61.8	73.3	37.3	41.2	34.5	72.7	9.7
	職業観育成のためのガイダンス科目（単位あり）	192	59.4	66.1	59.9	24.0	35.9	31.3	53.1	11.5
	汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）	260	51.2	58.1	75.0	31.5	10.4	10.4	70.4	8.5
	汎用的能力の育成を目的とした科目（単位あり）	146	52.1	59.6	55.5	22.6	15.1	12.3	40.4	13.0
	インターンシップ（単位なし）	243	30.0	58.8	86.8	26.7	5.3	52.3	28.0	13.6
	インターンシップ科目（単位あり）	222	15.3	54.1	84.2	20.3	9.0	50.0	29.3	12.2
	進路冊子の配布	370	32.4	24.1	84.1	20.0	7.6	3.8	36.5	32.2
教学側	職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）	144	34.7	46.5	61.1	30.6	29.9	22.9	32.6	11.1
	職業観育成のためのガイダンス科目（単位あり）	260	61.9	64.6	48.1	21.2	33.1	26.2	36.9	16.5
	汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）	116	45.7	50.0	56.9	31.9	14.7	12.9	31.0	17.2
	汎用的能力の育成を目的とした科目（単位あり）	248	62.1	62.5	51.2	27.4	14.9	11.7	24.6	32.3
	インターンシップ（単位なし）	103	25.2	49.5	70.9	34.0	8.7	42.7	19.4	11.7
	インターンシップ科目（単位あり）	277	16.2	49.5	84.8	24.5	12.6	49.5	20.9	15.5
	進路冊子の配布	125	28.8	22.4	43.2	17.6	4.0	2.4	15.2	28.8

各キャリア教育の取り組みにつき、「実施している」「予定または検討中」と回答した大学のみ対象。複数回答。網かけは各取り組み別に最も値の高いものを示す。

### Q. キャリア教育における問題点・課題は何でしょうか。

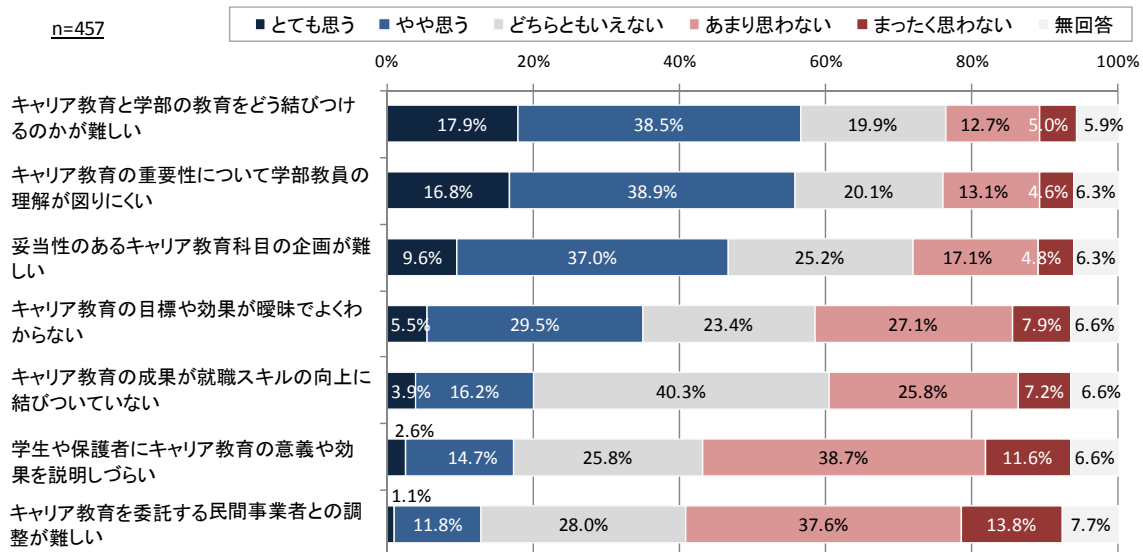


図1-2 キャリア教育の課題(全体)

## 2. 就職支援の現状

就活ガイダンス、面接対策講座、エントリーシート指導などは8割以上の大学で実施。私立大学では適性検査や一般常識の対策講座の実施率も8割と、国公立に比べて高い。

### (1) 就職支援の実施状況

設置者別に平成21年度に実施した就職支援の状況を見ると、「就活ガイダンス」「就職活動手引きの配布」「エントリーシート指導」「面接対策講座」「大学での企業説明会」などは国公立問わず、8割以上の大学で行われている。

国公立の違いが表れている項目は、「各種適性検査対策」（私立 82.6% > 公立 57.8% > 国立 52.0%）、「一般常識対策」（私立 78.2% > 公立 48.9% > 国立 38.0%）、「資格対策講座の設置」（私立 71.3% > 公立 37.8% > 国立 18.0%）（図2-1）。

Q. 貴大学で実施している就職支援を目的とした年間事業について伺います。平成21年度に実施した支援項目をすべてチェックしてください。

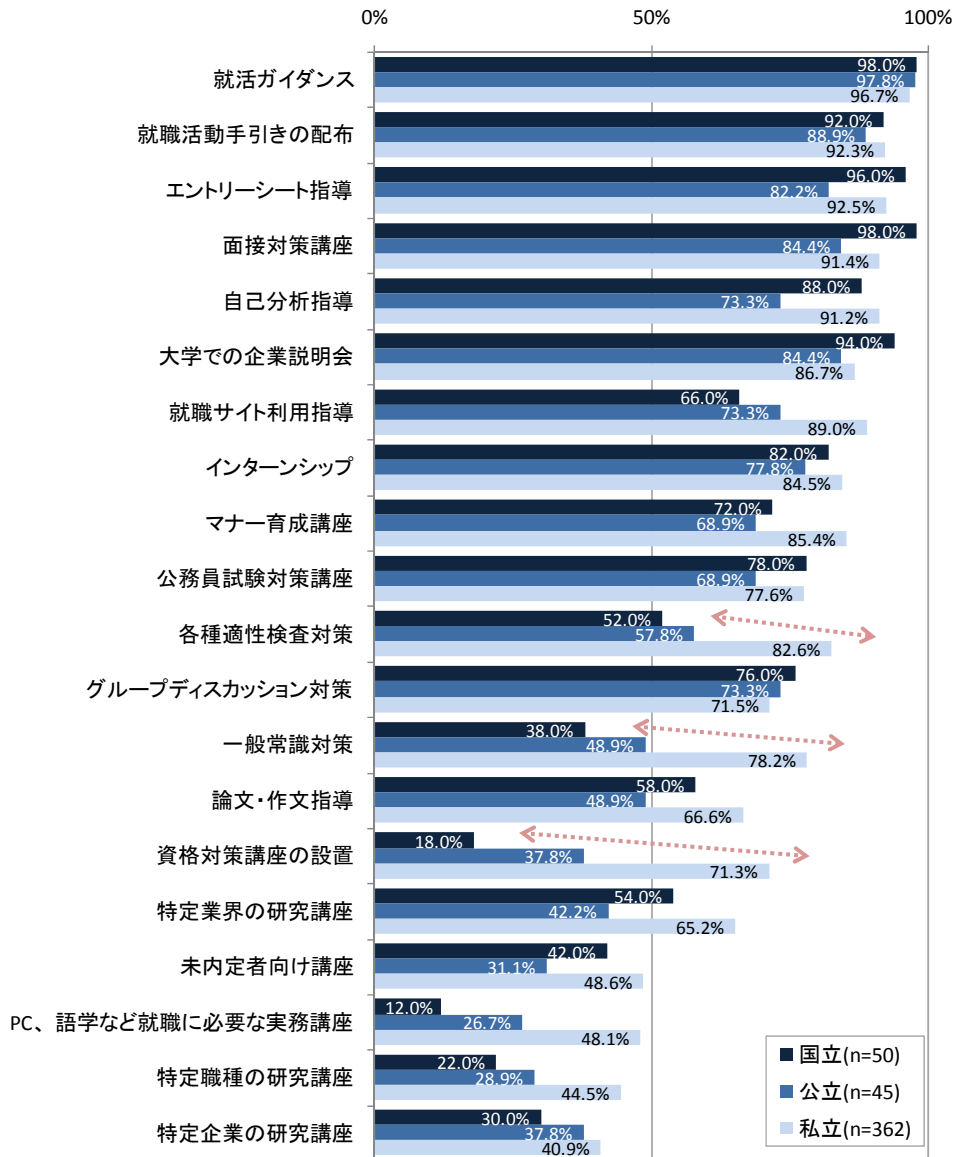


図2-1 平成21年度に実施した就職支援事業(設置者別)

次に、各就職支援の取り組み別に対象学年をみると、「未内定者向け講座」以外のすべての項目において、3年生が最も多い。「資格対策講座の設置」や「PC、語学などの就職に必要な実務講座」などの比較的取り組みに時間がかかるものは1～2年生での実施率も高い（表2-1）。

また、3年生を対象とした第1回目の就職ガイ

ダンスの時期についてたずねたところ、公立・私立では4月が多いが、国立では5～6月が多くなっている（図2-2）。

さらに、学生の第1回目のガイダンスへの参加状況をみると、公立・私立では平均で7割近い学生が参加しているが、国立では4割強となっている（表2-2）。

表2-1 就職支援の対象学年および外部協力者

(%)

就職支援の取り組み	平成21年度 実施 件数	対象学年				外部協力者			
		1年	2年	3年	4年	OB・OG	採用企業	就職支援 民間事業者	協力なし
就活ガイダンス	443	18.7	27.8	95.5	45.1	30.7	22.6	66.1	27.3
就職活動手引きの配布	420	8.8	9.0	93.6	17.6	3.1	1.2	38.8	46.7
エントリーシート指導	420	2.9	6.0	95.0	37.9	1.2	0.2	69.3	28.1
面接対策講座	418	2.6	7.7	92.6	39.2	3.8	8.1	70.8	25.4
自己分析指導	407	9.6	15.5	93.9	27.8	0.7	0.5	72.5	24.6
大学での企業説明会	399	5.5	10.8	92.5	50.1	19.0	75.2	22.3	14.5
就職サイト利用指導	388	4.6	7.2	94.1	20.6	1.0	1.8	76.8	17.0
インターンシップ	382	18.6	56.0	95.5	21.7	8.1	50.5	33.5	23.3
マナー育成講座	376	11.2	20.5	93.4	23.1	1.9	2.1	85.4	9.3
公務員試験対策講座	351	45.6	68.4	95.7	45.9	2.3	2.3	82.1	8.0
各種適性検査対策	351	18.2	27.1	92.9	16.8	0.0	0.0	84.3	8.8
グループディスカッション対策	330	3.3	8.2	95.2	28.5	3.0	3.6	70.3	26.1
一般常識対策	324	15.4	26.5	95.7	23.8	0.3	0.0	83.6	10.8
論文・作文指導	292	7.9	11.0	88.4	44.9	1.4	0.0	56.5	38.4
資格対策講座の設置	284	72.2	80.6	91.5	71.8	1.1	1.4	74.6	14.4
特定業界の研究講座	282	16.7	25.9	94.0	21.3	29.1	53.9	41.8	13.1
未内定者向け講座	211	0.0	0.0	7.1	91.5	2.8	4.3	43.6	50.2
PC、語学など就職に必要な実務講座	192	78.6	83.9	89.1	68.8	1.0	0.5	68.8	19.8
特定職種の研究講座	185	19.5	30.8	89.2	23.8	33.5	50.3	41.1	18.4
特定企業の研究講座	180	16.7	25.0	92.2	22.8	30.0	67.8	28.3	12.2

各就職支援項目につき平成21年度に「実施」と回答した大学のみ対象。複数回答。網かけは各取り組み別に最も値の高いものを示す。

Q. 平成21年度における、3年生を対象とした第1回目のガイダンスの開始月と参加率についてご記入ください。

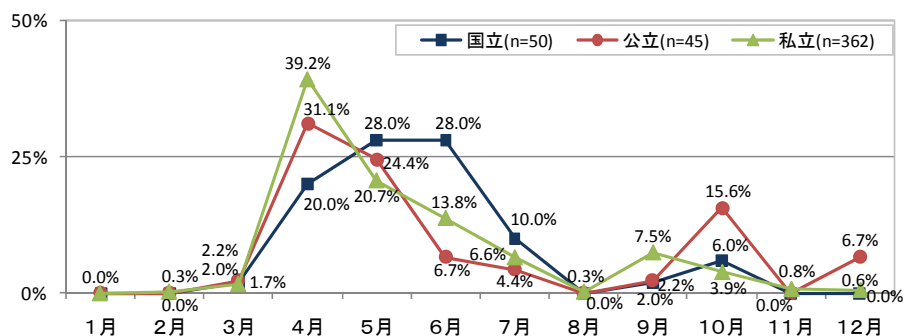


図2-2 3年生を対象とした就職ガイダンスの開始月(設置者別)

表2-2 3年生を対象とした第1回目の就職ガイダンスの参加率(設置者別)

就職ガイダンス 参加率(平均値)	国立大学 (n=44)	43 %	*無回答を除く
	公立大学 (n=40)	68 %	
	私立大学 (n=337)	69 %	

## (2) 就職支援の評価と実効性の向上について

就職支援の成果を測る指標としては、「就職率」(87.3%)の回答が最も高い。次に「就職支援に対する学生の満足度アンケート」(54.7%)、「就職相談窓口への相談回数」(47.7%)と続く(図2-3)。

また、特に学生の就職状況の把握方法についてたずねたところ、「学生の自主報告」によるもの

が最も多い(92.1%)が、「学生本人へのはがき・電話等による追跡調査」も76.1%の大学で行われている(図2-4)。

就職支援の効果を高めるための取り組みとしては、「学生側のニーズ、課題に即した企画の重点化」の回答が最も多く、77.5%であった(図2-5)。

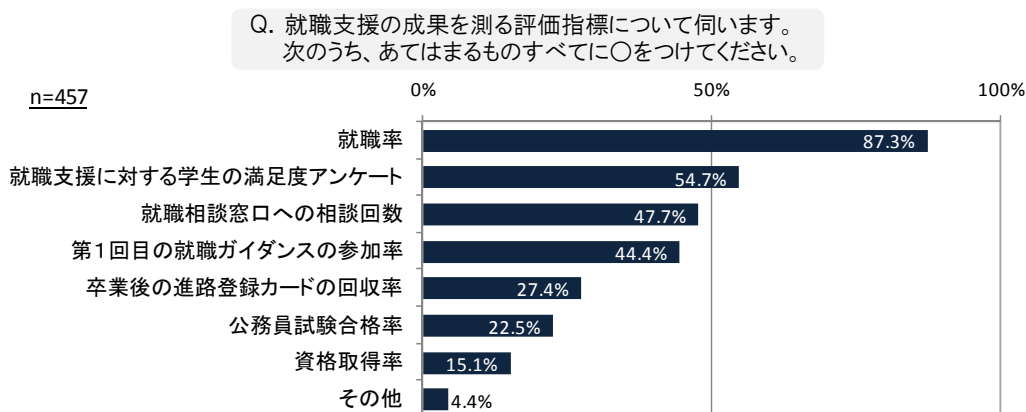


図2-3 就職支援の成果を測る指標(全体)

\*複数回答

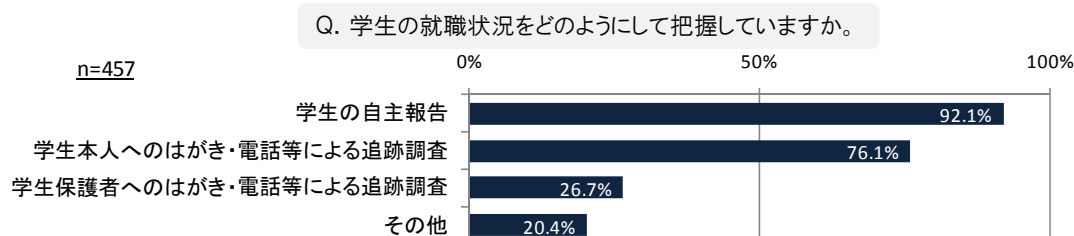


図2-4 学生の就職状況の把握方法(全体)

\*複数回答

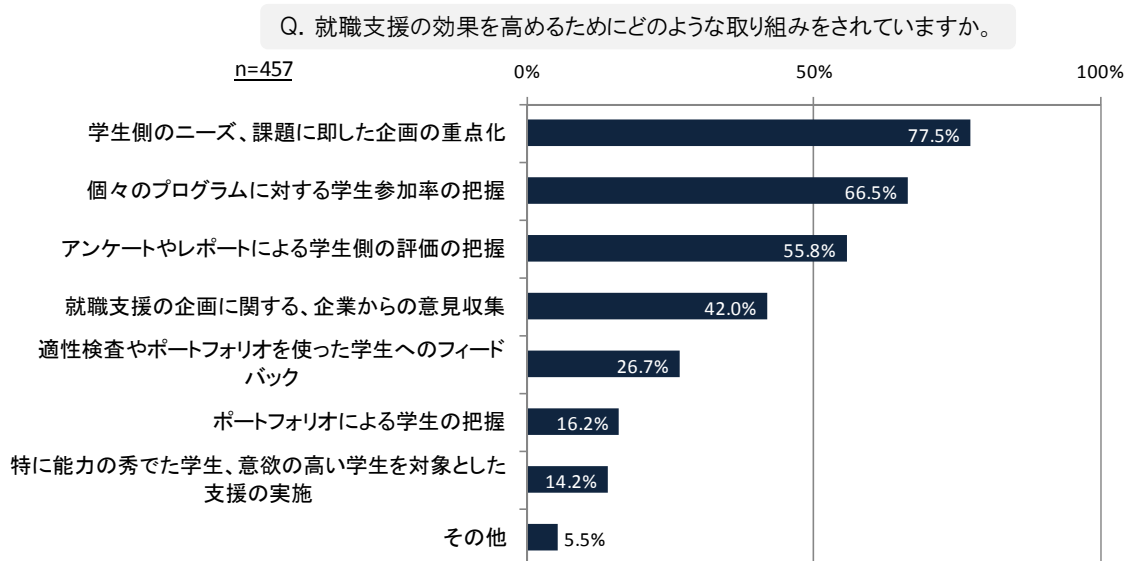


図2-5 就職支援の効果を高めるための取り組み(全体)

\*複数回答

### (3) 企業への働きかけの状況

大学から企業への働きかけとして、企業への情報提供と採用依頼の実施状況についてうかがった。まず、企業への情報提供については、「企業向けの冊子やパンフレットをつくっている」ところが半数程度あり、設置者別でみると私立大学が多い（53.3%）。企業訪問やホームページでの情報提供についても私立大学はいずれも4割強が実施している。一方、国立大学は「特に行っていない」との回答が44.0%と公立・私立に比べて高くなっている（図2-6）。

次に、企業に対する学生個人の紹介や直接的な採用依頼の状況を見ると、私立大学において企業への働きかけを行っている大学が7割近く存在するが、国立大学では3割程度、公立大学でも4割程度であり、私立大学が突出して多いのが分かる（図2-7）。

Q. 大学で学生が身につけた就業力について、企業等に情報提供をしていますか。

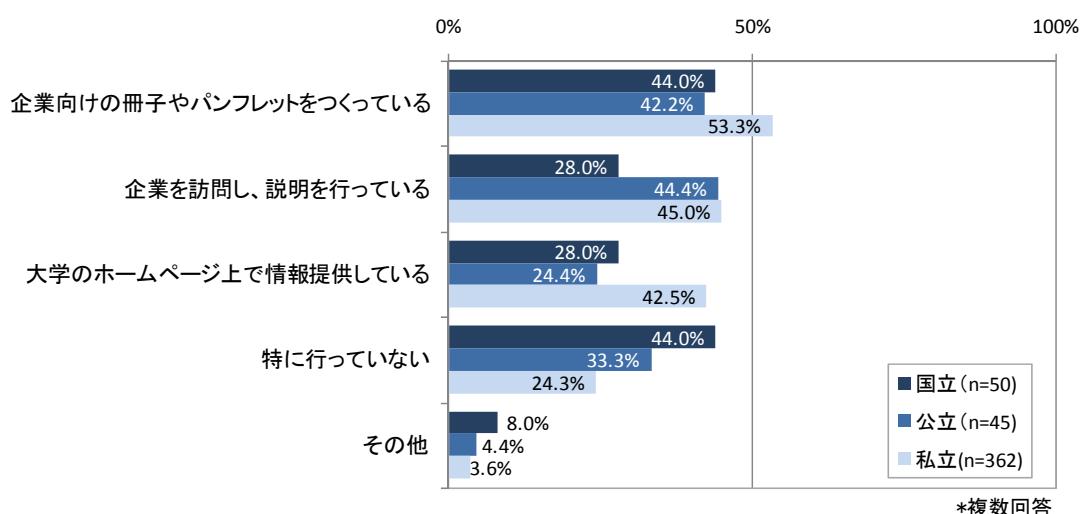


図2-6 企業に対する情報提供(設置者別)

Q. 企業に対して学生個人の紹介や直接的な採用依頼をしていますか。

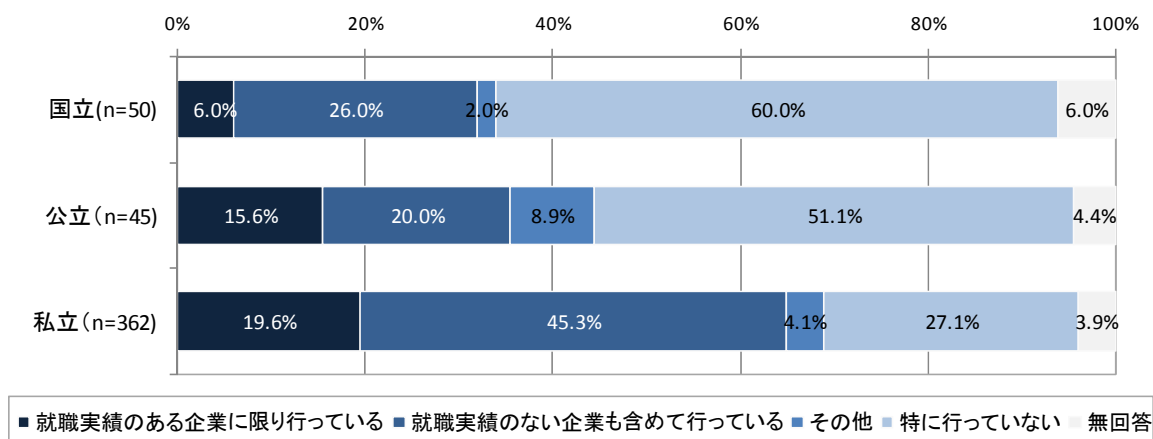


図2-7 企業に対しての学生個人の紹介や直接的な採用依頼(設置者別)

# 3. 進路・就職相談について

学生からの相談内容の多くは、自己分析と採用試験の対策。

## (1) 進路・就職相談の実施状況

進路・就職相談の実施状況についてみると、相談専用コーナーを設置している大学は 84.2%であり、多くの大学で設置していることが分かる。

また、相談担当者については、学内の担当者のみでの実施が 73.1%、一部またはすべてを外部委託している大学が 24.3%存在する。

さらに、相談時間を決めていないかたずねたところ、1回の相談時間を決めていない大学は 33.5%しか存在しないが、その具体的な相談時間をみると、「16～30分」程度が 40.5%と最も多くなっている（いずれの割合も相談時間を決めていない大学の割合の内数）（図3-1）。

Q. 日常的な進路・就職相談をどのように実施していますか。

n=457

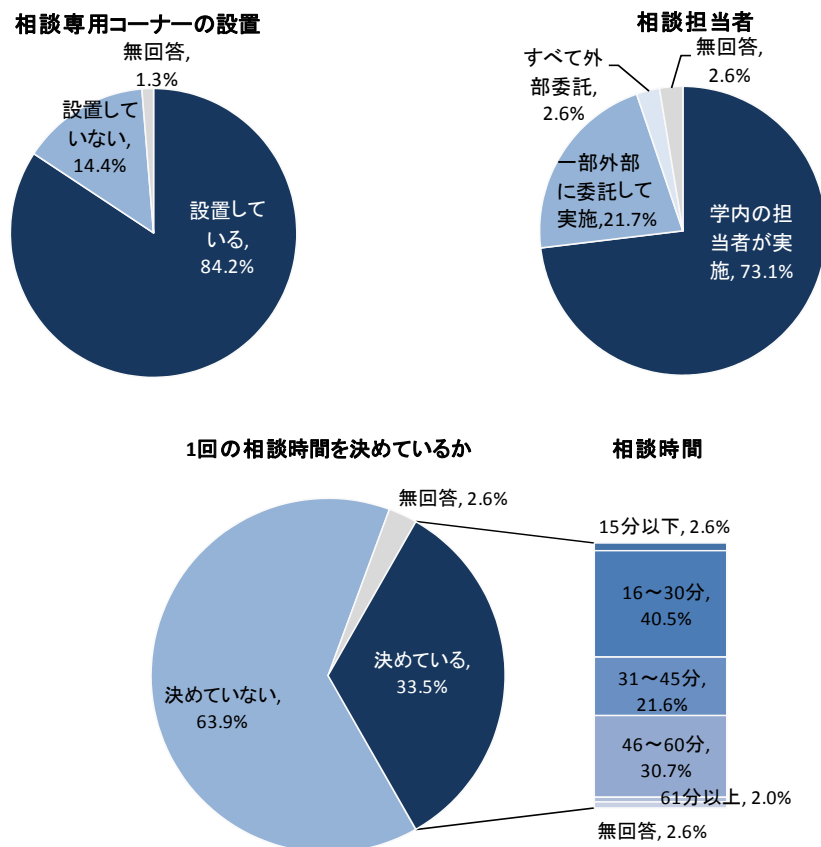


図3-1 進路・相談専用コーナーの設置状況と1回の相談時間・相談担当者(全体)



## (2) 学生からの進路・就職相談内容

学生からの進路・就職相談内容をみると、「自己分析（志望動機・自己PR）について」「採用試験（面接・筆記）について」がいずれも8割以

上と同程度に多い（図3-2）。これらの項目は、3年前と比較して特に増えてきた相談内容についてたずねた結果でも上位になっている（図3-3）。

Q. 相談内容について、特に多いものを5つまで選んでください。

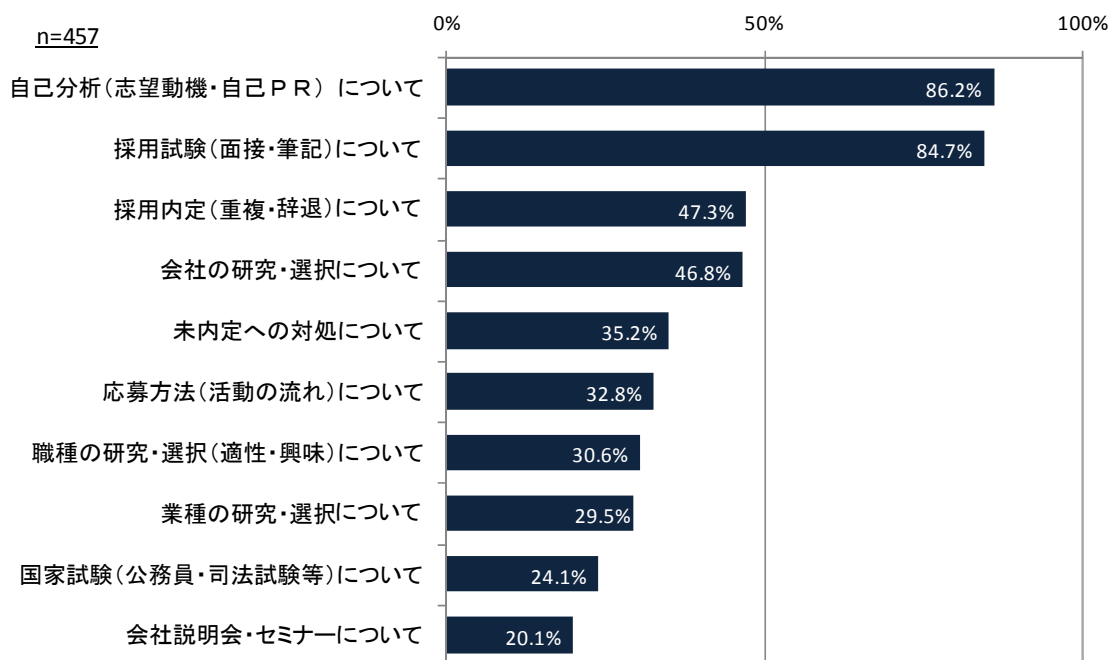


図3-2 学生からの進路・相談内容トップ10(全体)

Q. 3年前と比較して、特に増えてきた相談内容があれば3つまで選んでください。

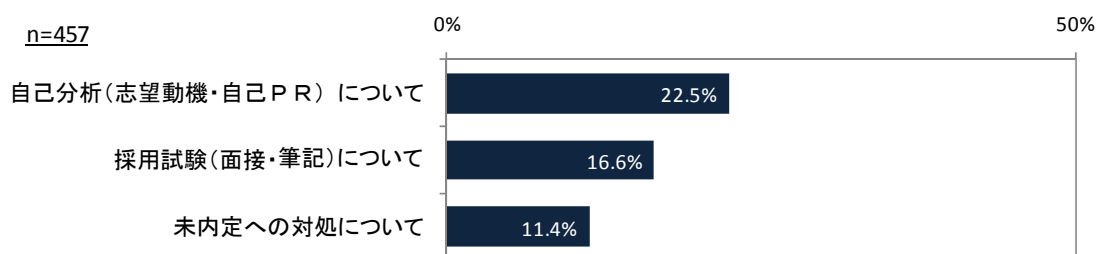


図3-3 3年前と比較して増加した学生からの進路・相談内容トップ3(全体)

## 4. キャリアセンターからみた学生の課題

就職に関する学生の課題は文章力や表現力。内定のとれる学生ととれない学生の二極化も多くの大学で見られている。

就職支援活動を通して学生側にみられる問題点・課題についてうかがったところ、「エントリーシートを作成に必要な文章力が不足している」という回答が「とても思う」「やや思う」の合計で82.5%、「学生の思考力や口頭での表現力が不

足し、面接指導が難しい」が70.7%と高くなっている。また「複数の内定を獲得する学生と、内定の決まらない学生が二極化している」との回答も70.3%にのぼっている（図4-1）。

Q. 貴学の就職支援活動において、学生側にみられる問題点・課題は何ですか。

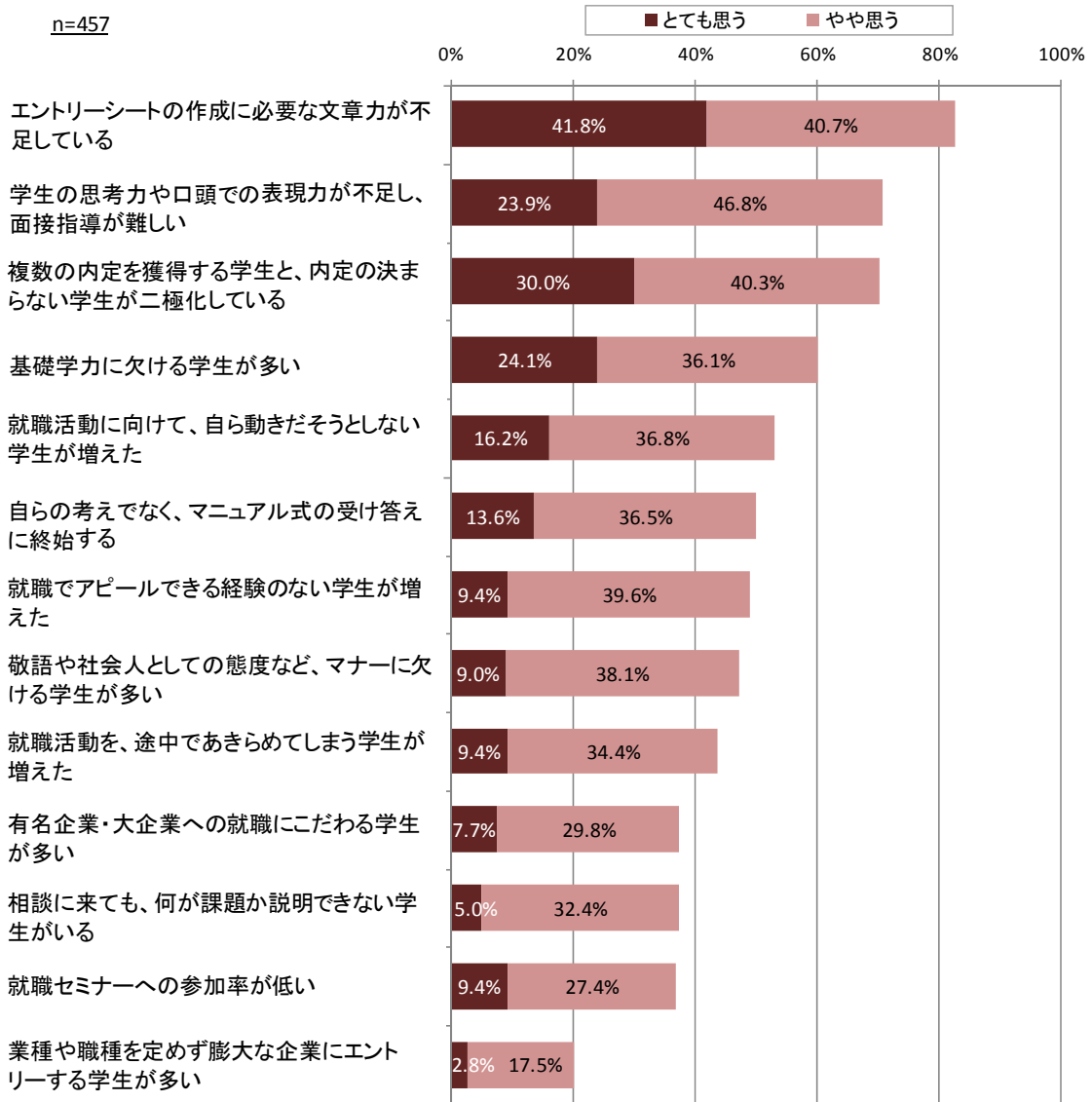


図4-1 学生側にみられる課題(全体)

次に、内定の得られる学生とそうでない学生を比べた場合の、内定の得られる学生の優れている点をうかがったところ、「自分なりの考えをまとめる力が優れている」、「文章力や口頭での表現力など、基礎的な汎用能力が優れている」という回答が多

く（「とても」+「まあ」でそれぞれ 89.5%、85.4%）、学生側にみられる問題点・課題で多かった回答の裏返しとなっており、基礎的な汎用能力がキーとなっていることが分かる（図 4-2）。

Q. 内定の得られる学生は、そうでない学生に比べてどのような面が優れているとお考えですか。

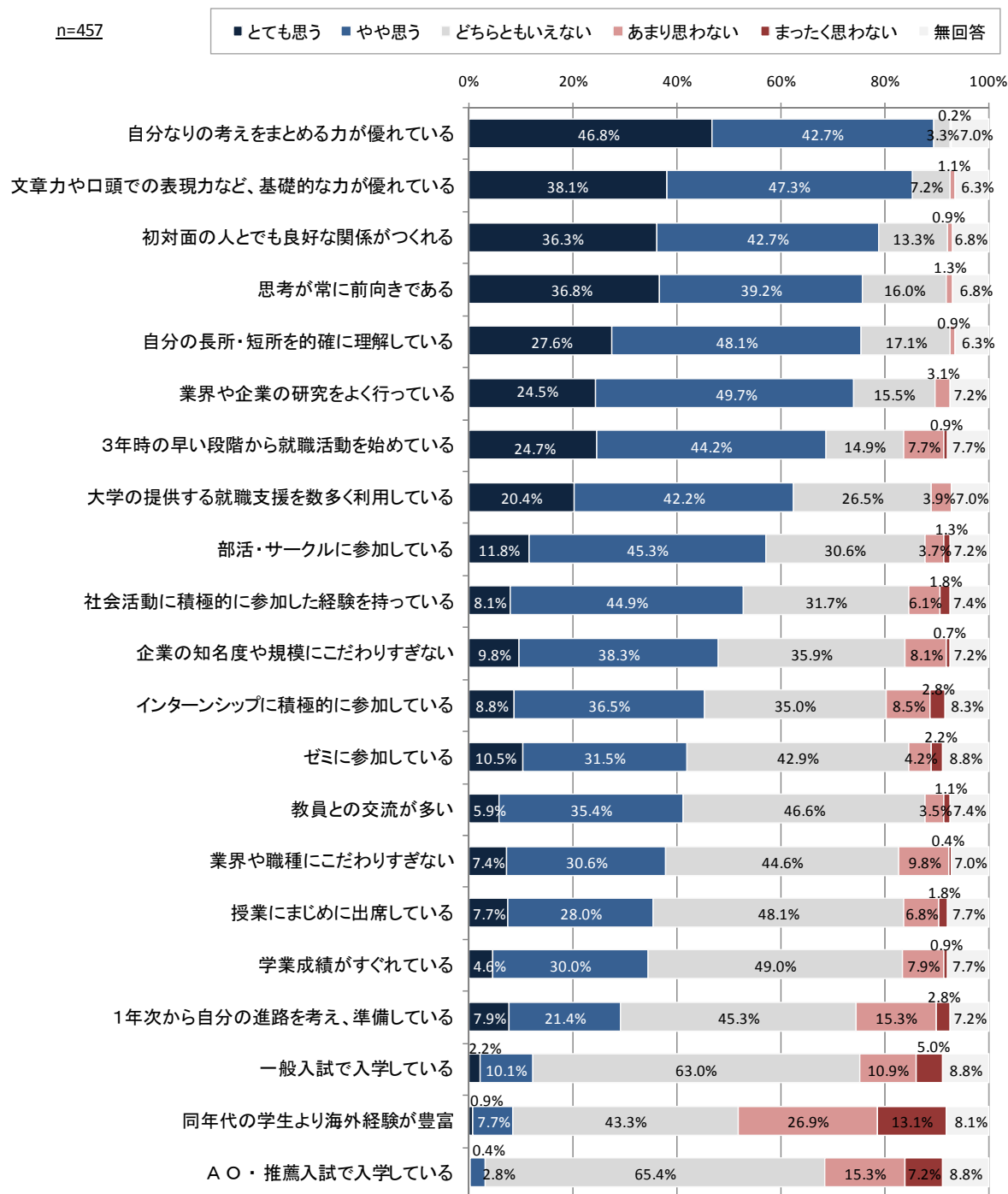


図4-2 内定の得られる学生の優れているところ(全体)

# 5. キャリア教育・就職支援体制

キャリア教育・就職支援の方向性について検討する全学的な委員会を7割近くの大学で設置。今後の課題はキャリアセンターと学部教員の連携強化と汎用的能力の育成。

### (1) キャリア教育・就職支援の協力体制

キャリア教育・就職支援の企画・実施に際しての協力体制については、国公私問わず、「キャリア教育・就職支援の方向性について検討する、全学的な委員会が設置されている」との回答が7割近い（図5-1）。

### (2) キャリア教育・就職支援の事業予算

次に、キャリア教育・就職支援関連の事業予算の今後の見通しについて見てみると、キャリア教育については「拡充の方向」が22.3%、「現状維持の方向」が44.2%となった。一方、就職支援については、「拡充の方向」が19.5%、「現状維持の方向」が53.0%で、いずれも現状維持がほぼ半数程度となっている（図5-2）。

Q. キャリア教育・就職支援の企画・実施に際して、大学全体としてどのような協力体制のもとで行っていますか。

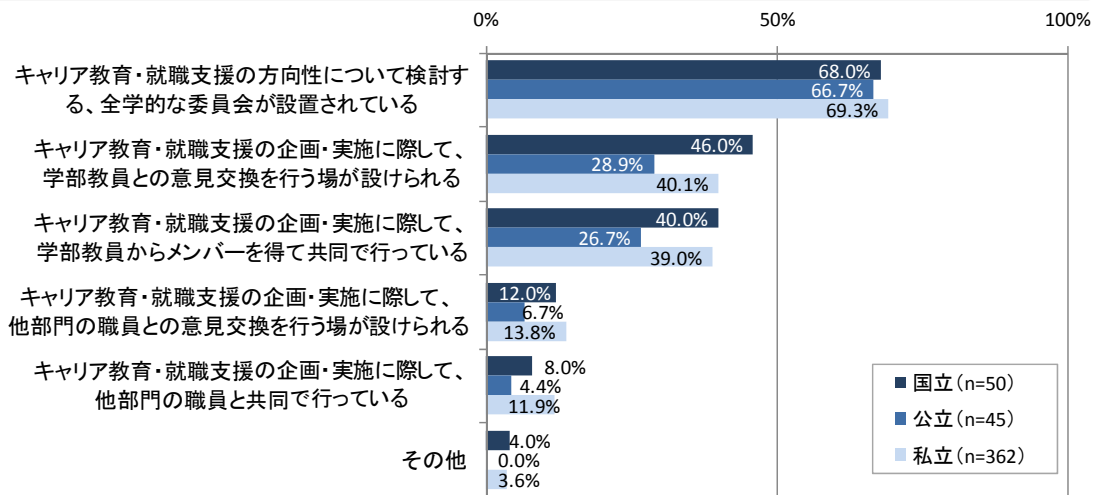


図5-1 キャリア教育・就職支援体制の状況(設置者別) \*複数回答

Q. キャリア教育・就職支援関連の事業予算について、今後どのような見通しですか。

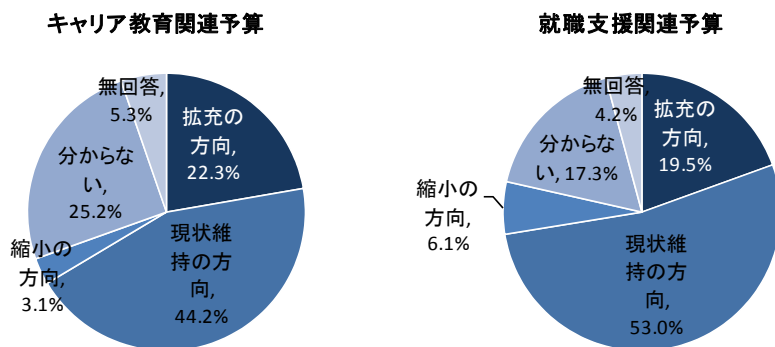


図5-2 キャリア教育・就職支援関連の事業予算の見通し(全体)

### (3) 今後のキャリア教育・就職支援について

最後に、キャリア教育・就職支援に関して今後の課題についてうかがった。まず、「とても思う」の回答が高かったものが「キャリアセンターと学部教員の協力関係を深めることが重要である」(68.3%)、「就業力の基礎となる汎用的能力(思考力、表現力、討議力等の育成を通じた、課題解決力)の育成が重要である」(51.0%)であり、「とても思う」「やや思う」の合計ではいずれも9割にのぼる。前章の学生の課題にもみられるように、

基礎的な汎用能力の育成が大きな課題と認識されており、そのためにも教学側との連携は重要となるだろう。また、「キャリアセンター職員の、専門能力を高めることが重要である」「キャリア教育と就職支援の一体的な企画・運用が重要である」「低学年時からの指導の拡大が必要である」といった項目についても半数近くが「とても思う」と感じ、「やや思う」も含めると8割以上が課題と感じている(図5-3)。

Q. 今後、より効果の高いキャリア教育・職業支援を行っていくために必要な課題についてお聞きます。

n=457

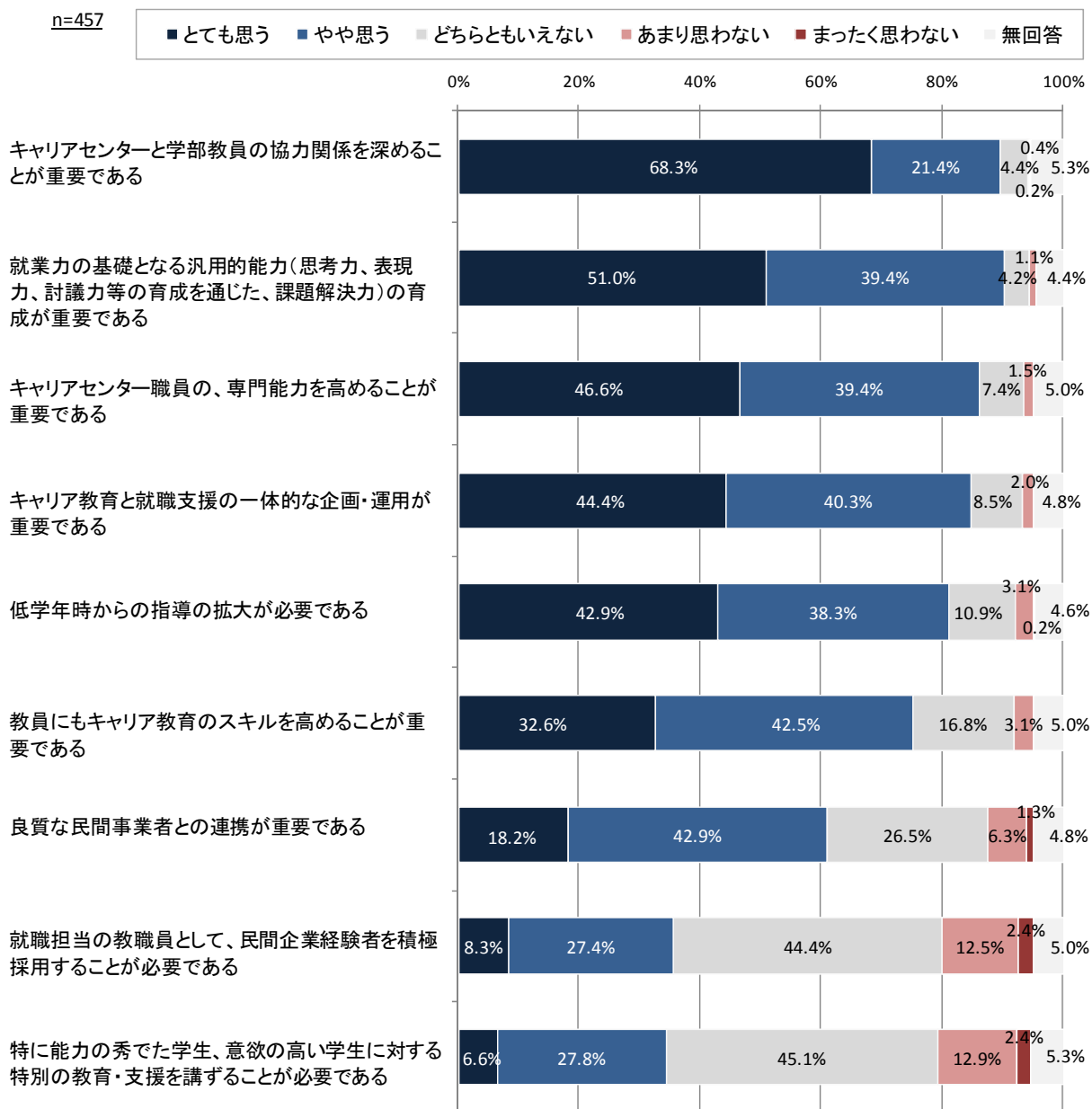


図5-3 キャリア教育・就職支援体制の課題(全体)